

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291500039		
法人名	株式会社 竹膳		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	茂原市本納2365-1		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人の要望に出来るだけこたえグループホームせせらぎで過ごせてよかったと満足して頂けるよう職員の教育、レクリエーション、環境整備に努めてまいります。
現在はコロナ禍で外出することがなかなか難しいですが地域の方々との交流や気分転換に毎月外出をしたいと思います。又、御家族と入居者様と職員の交流の場も設けたいと思います。
時間にとらわれずご本人のペースで過ごせる家庭に近い環境づくりを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭の延長として、今までの暮らし方、本人の好み、ペースを尊重した支援に努めている。
ホームが発行するたよりに利用者の様子を伝えるページをつくり、家族から喜ばれている。感染対策には特に留意し、職員のPCR検査、共用空間の消毒、清掃、調理台、食卓の消毒、利用者の手指消毒、検温など、きめ細かく配慮している。最近、協力医療機関の訪問看護ステーションから看護師がホームに来ており、医療面でも一層充実した体制となった。新任の管理者は職員とのコミュニケーションを密にし、理念の実践に向けた取り組みを始めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解ができていないため実践出来ていない	「家庭の延長として居心地の良い暮らしやすい環境」を理念に謳っている。新任の管理者はまだ実践ができていないと感じており、現在職員と信頼関係をつくりながら、実践に向けて動き出したところである。	職員と理念を共有しながら、少しずつ実践していくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍の為地域の方との交流はしていない	地域の行事や会合などへの参加は自粛しているが、自治会役員、民生委員などとは、交流を図り情報交換をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加していく予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見をもとに職員が同じベクトルを向きより良いケアが出来るように努めていく	会議は運営状況、活動内容、感染予防、環境整備、医療体制、今後の取り組みなどが紹介され、話し合われている。家族代表、地域役員、行政など参加者からの意見も多く出ている。会議録も分かりやすいと評価されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり密に連絡や相談などを行っていく	行政の担当者は毎回運営推進会議に参加しており、運営状況について意見交換、相談できる関係性にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を設置。身体拘束とは？など勉強会を行う	3か月ごとに身体拘束適正化委員会を開催し、虐待・身体拘束のグレーゾーン、不適切な介護、スピーチロック、高齢者の権利擁護などをテーマに話し合っている。また、普段から言葉遣いにも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行う		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度等について学ぶ機会は今後計画していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等はまだ未経験なので御家族からの疑問に十分な説明が出来るように努める		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し頂いた意見を受け運営に役立てる	運営推進会議には家族代表が出席しており、意見を聞いている。他の家族とは電話やメールで利用者の様子を伝える時に聞くようにしている。また、利用者とはゆっくり話す時間を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1/月の定例会議で職員の意見・業務の改善点などを話し合う	毎月の会議は、職員全員と管理者、経営者が参加しており、支援方法や運営方法、業務の改善について話し合っており、反映に努めている。また、管理者は毎月、職員と個別に面談の時間を取って、話を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	貢献度により昇給制度があり職員が働きやすい環境を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関して補助金制度あり、職員が働きやすい環境を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修など交流の場があれば積極的に参加したい		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を聞き出来る限りこたえられるように努めていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いを尊重し出来る限り実現できるよう努めていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体状況に応じ自立を促すサービスに対応する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとり信頼関係を築いている。 一方の立場にならず与える側、与えられる側の関係が築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご本人の様子が分かる日誌を送付したり 家族と職員、家族と利用者様の交流の場を設ける		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行ける範囲で馴染みの場所など外出にできるよう支援する	コロナ禍前は、利用者は家族と外食に出かけるなど、関係継続できるよう支援していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の席の配慮や出来るレクリエーションの参加		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切に信頼関係が確立したら徐々に行っていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ希望に添い自宅と同じような暮らしが出来るよう支援していく	リビングでの休憩時や入浴時、イベント時などゆっくり話をする機会があり、思いの把握に努めている。また、自宅での生活習慣や好みも尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを把握し日常の習慣、趣味、好きな事など取り組めるように配慮している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に過ごしている。 無理強いはずせず自分で出来る事は自分で行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族を含むサービス担当者会議を開催し 本人の望む暮らしについて意向を確認してそれに基づいた施設サービス計画書を作成している。	本人、家族、管理者、ケアマネジャー、職員でサービス担当者会議を開催し、介護記録や本人の意向にもとづいた介護計画を作成している。計画書は6か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録に記入し職員間でミーティングを行い情報の共有、ケアの実践に活かす		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務内容や生活支援はその都度職員と相談しより良い生活スタイルを考えている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ず主治医を聞き疾患や希望に合わせている。施設契約の病院とは常に連携をとりより良い医療サービスを受け入れられるよう配慮している。	ホームの協力医療機関から看護師が来ており、利用者の健康状態を診ている。看護師が受診が必要と判断した場合は、管理者が同行している。また、毎週訪問歯科による口腔内チェックもおこなわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2月より週2回訪問看護をお願いする。24時間体制となっており夜間の緊急時にも対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院との連絡を密にし入院時は協力してもらえよう相談済み。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前管理者が入居者家族全員と面談・話し合い、意志確認書の記載を受けている。	「重度化した場合における対応に係る指針・看取りに関する指針」を示し、説明している。重度化し場合は医師から説明をして、意向を確認している。希望に応じて、ホームでの看取りをおこなう体制があり、事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後訓練のための勉強会を開催する予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時用非常食やオムツなどの備蓄、災害時の参集項目、連絡体制の整備はできているが訓練ができていないため今後取り組んでいく	火災を想定した訓練は実施している。今後、地震などの訓練、備蓄品・避難経路の確認、事業所間の連携、地域住民とのコミュニケーションに取り組む予定である。	昨今は、想定外の災害が多く起きています。優先順位をつけて、計画を作成し、訓練を実施することが望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応面で人格を傷つけないようプライバシーを守るため言葉遣いの勉強会を行う予定	人格を尊重する言葉遣いに心がけている。また、利用者の居室に入る際や、トイレ誘導などは、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に選んで頂くような声かけのし仕方に配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者主体の介護にならないように日々職員同士の情報交換、会議で話し合い希望に添えるよう実施していく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類が汚れた時は直ぐに交換し毎朝整容を行い清潔感ある身だしなみを心掛ける。散髪を2ヶ月に1回行い近隣の美容師に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好み、形態は個別に対応。食事の片付けの手伝いをしてもらっている。	法人に食事部門を司るフードセンターがあり、ホームでも利用している。箸や茶わんは利用者が自分専用のものを持ってきて使用している。また、職員も利用者と同じ食事を採っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身長・体重・活動量・認知度を考慮。カロリーや水分量の調整をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回口腔体操と歯磨きを実施。週1回訪問歯科の往診を依頼している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所や使用方法について分かりやすく提示し声かけも行う。時間と本人の行動に応じてトイレへ誘導している。	利用者個々の排泄状況を把握しており、タイミングを見て、あるいは、利用者の動きを見て声掛け誘導をしている。また、看護師がアドバイスをくれることもあり、職員間で情報を共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を促し毎日体操を行っている。散歩にお誘いするなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴できるように1人の入浴時間を長く取れるようにしている。ゆず湯や入浴剤などでリラクゼーションを図っている。	利用者は全員浴槽に入ることが出来ており、入浴時間はゆっくり取っている。利用者の若かった頃の話の聞いたり、今やりたい事などについても話を聞くことができる。また、爪や髪、皮膚などの健康状態もこの時に確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をしたい方は夜間に影響しない程度にお部屋で休息して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はいつでも薬事情報を確認できるようにしている。訪問薬剤師を導入しており飲みやすいような工夫や症状・状態に合わせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや拭き掃除の手伝い、細かい作業が得意な方には手仕事をお願いしている。なるべく家庭に近い生活環境を目指す。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為実施できなかった。	以前は毎日のように散歩し、時々職員と一緒にスーパーに出かけることもあった。コロナ禍により、現在はホームの周りの散歩に留めている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はできないためご本人の希望時に使って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施出来ていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ち余計なものは置かないようにする。季節感を出すよう時季にあった装飾をしている。	常に清潔を保つようにしており、特に今は手すりや床の消毒、換気に注意している。季節感のある共用空間をつくるように心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行動は自由であり居室で休みたい方はいつでも休めるよう声かけしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族との相談で写真や思い出の品を飾ったり壁の装飾も自由に行っている。	ホームは家庭の延長と考えており、使い慣れた物や写真などを自由に持ち込んでいます。職員は部屋づくりを手伝い、衣類、備品の補充、掃除など日々支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やフロアは動きやすい空間にしている。トイレの場所は分かりやすく表示し進んでいけるよう声かけしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと